

第5回 歩き旅

おおへじ
大辺路の里

ご案内

「歩き旅は、どこに行こうか」と寒い冬に思案していたら、
やはり暖かい紀伊の国が出てきました。
紀伊と言えば、熊野古道。そし波照り輝く太平洋。

熊野古道はいろんなコースがあります。吉野山や高野山からの険しい山岳コースもありますが、歩いて気持ちよく古道を楽しむにはJRも近くにある海沿いがいい。
大辺路は、田辺市から海沿いに潮岬と通って那智勝浦までのコースです。
国道のコースは危ないので、運良く残ってくれた古道を歩きます。

- 1日目は、白浜温泉付近からこれぞ熊野古道・富田坂を越し安居（あご）の集落近くで泊ります。約12キロ。楽勝の距離です。
- 2日目は、古道唯一の「渡し船」で日置川（ひきがわ）の向う岸に渡り、仏坂を通過して周参見（すさみ）まで。約10キロのみ。

安居の集落は、「この時期、里山が梅の花でいっぱいですよ」と聞きました。
その梅の時期に合わせて、今回は少し早い2月末になりました。
紀伊の国、熊野古道、梅の花、渡し船。役者が揃いました。
いつもと少し趣きの違う「歩き旅」ですが、距離も短いのでゆっくり楽しめます。

月 日 2015年2月28日（土）～3月1日（日）
出 発 和歌山県JR紀伊富田駅 午前11時頃
到 着 JR周参見駅 午後 3時頃
宿 泊 安居付近の民宿 7000円（1泊2食）
参加者 20名程度 参加費なし
申 込 1月24日までに森塚へ

☆詳細は、参加申込者に1月末頃連絡します

呼びかけ人 森塚良郎

〒610-1145

京都市西京区大原野西竹の里町 1-14-185

電話・FAX 075-332-3154



「犬も歩けば棒にあたる」 の格言も
「人が歩けば車にあたる」 現代ではこうなってしまいます。
では、車がない時代ならどうなるのだろうか

「人が歩けば道が出来る」 やっと道の話に繋がりました。
同封したのは和歌山県の大正時代の地図で、毎日新聞社が新聞販売の付録として配った
ものです。文字も右書きで、実物は朱色の色使いが見事な地図です。まだまだ車は一般
的ではなく、鉄道が近代交通として登場しましたが、和歌山県ではまだまだ創生期で鉄
道の紀伊半島一周は遠いようです。これは車がない時代の地図です。

車がない時代の道はどういう風景だったのでしょうか。
車がないということは、人だけが歩く道です。人が道の真ん中を歩けるんです。現代は
旧街道と言われる道を歩くときでも、道の端を車を気に遠慮しながら歩きますが、当時
は毎日が歩行者天国状態です。

「歴史の道」という道があります。東海道、中山道、山陰道などが代表選手です。それ
以外に、古い旧街道で規模の小さな歴史の道もあるはずです。
昭和の50年代から都道府県単位で「歴史の道調査報告書」という街道を調査した本を
作り始めました。日本列島改造でブルドーザーが街道を潰す前に記録しよう、記録しな
ければと各府県がこぞって発行しました。
当時すでに旧街道の多くは、新しい新道で分断され改造され、街道の繋がりが判りづら
くなっていましたが、府県を代表する歴史の道が登録誕生しました。

この地図は車社会前ですので街道は判りやすく、この地図はそれをよく伝えてあります。
町と町を繋いでいるのが街道です。1本しかありません。道が何本もあると「どっちの
道へ？」と迷うことにはなりますが、当時は地図上でも現場でも迷いません。歩くだけの
道ですので、交通量が増えたとしてもバイパス道をつくる必要はありません。

そして、その道は目的地に向かいます。道が放射状に集まっているところは関心の多い
場所です。熊野本宮や高野山などは結構集まっています。なぜか和歌山市は県庁所在地
なのに人気がありません。

図面左枠に和歌山県が命名した街道名と〇〇—〇〇—〇〇の数字じゅず繋ぎを書きま
した。〇〇は図面の中のある地点番号です。その番号をたどれば街道が繋がります。

「人が歩けば棒にあたる」 道は歩いてやれば、いろんな棒が積み上がります。
それが「歴史の道」、「人が歩く道」です。さ一歩きましょう。

安居の集落の上流にある「えびね温泉」は、「白浜」の湯よりいいと、地元の人から熱心に勧められた。民宿までの途中で素通りするのも無理だし、600円の値打ちはありそうだ。民宿のおじさんの車に乗せてくれるし、川のそばにある温泉もいい。

安居の渡し舟の予約をお願いすると、「漕ぎ手は5分とかからない所にいるから、ゆっくり来なさい」と言ってくれた。漕ぎ手……手漕ぎの舟か？

「大雨だったら渡しはダメだけれど、2月は大丈夫やろう」

「梅の花も今年は寒くて少し遅れそうや」

いろいろ気を使ってくれるが、天気ばかりはどうしようもない。

どうしようもないと思うのだが、その気づかいが嬉しい。

ゴールは、紀南の海の中にある穂積島にしました。

昔は離れ小島だったのが、地図では繋がっているように見える。

「少し足元が悪いが渡れるやろ」と、役場の若い女子が職場の先輩らに聞いているのだろうか、電話の向うの話し声が聞こえる。

周参見駅の真正面、すぐそこにある小さな島だ。南洋の植物があるのだろうか。

島の神社の赤い鳥居が、歩き旅のゴールゲートです。

*地図はもう少し先、長井坂のある熊野古道まで作りました。

1日目

* 電車の中で各自早めの昼食 特急の先頭車両付近に乗車

午前 11:03 JR紀伊富田駅 特急到着

午前 11:30 出発 安居(あご)まで山道13キロ 5時間

午後 4:30 集合 安居の郵便局前

民宿・前田屋の車で「えびね温泉」まで(3.3キロ)

ただし、早く着いたものは、集合せずにえびね温泉まで歩く。

(森塚まで歩くことを電話連絡する。)

午後 5:00 えびね温泉 着 温泉の営業は午後6時まで

民宿・前田屋まで歩く 700m

午後 7:00 夕食 民宿前田屋(0739-53-0204) 7500円集金

2日目

午前 6:30 朝食

午前 7:30 出発 民宿前 安居まで平地4キロ 1.5時間

午前 9:00 安居の渡し 着 別れて渡し舟に乗る

午前 9:30 出発 安居の向岸 穂積島まで山道8キロ 3.5時間

昼飯は民宿で用意してもらいました。(500円)

午後 1:00 ゴール 周参見・穂積島

午後 2:01 JR周参見駅 特急乗車

午後 4:57 大阪駅到着